

	令和5年11月18日(土) 9時30分～11時35分							
会場	市民プラザあくろすホール1							
運営委員	会場	村上 むつ子	欠席	平澤 和哉	欠席	横山 真理	会場	水田 征吾
	欠席	加藤 和歌子	会場	毛利 勝	会場	小松 明日香	会場	原島 秀一
	会場	石井 洋子	会場	阿部 秀樹	会場	浜本 正樹	会場	石正 房江
	会場	安藤 雄太	会場	佐竹 澄子	欠席	熊谷 紀良	会場	松谷 知彦
	会場	田村 敦史	欠席	ニンファ・ジャヤマーンナ				
事務局	池田、青木、鈴木							

1 はじめに

各委員より近況報告を行った。

《協議事項》 10:05～10:35 (30M)

2 運営委員会の今期の取り組みに

資料1

【事務局】 前回の協議を継続してグループで議論していきたい。

【委員長】 それでは今期の取り組みについて、30分ほどグループで議論をしていく。来年度も、このメンバーで運営していく。行う活動を絞り込む為に今日は時間を持ちたい。資料1は、前回までの記録だ。前回は振り返りつつ、「子ども」、「50代男性」、「高齢者」3つに分かれ、具体的にどういった活動に落として行くか、話し合っていたらいい。その際どういったところに効果が出るか、5か年計画書を意識しながら、話を進めてほしい。

【事務局】 1点補足だが、前回までの話の中で各グループ共通していたことは、話し合うだけでなく、現場を見に行き調査したいという声だった。運営委員会全体としての今期の取り組みとしては、そのような方向性になっていくだろう。今後は運営委員会の中で議論していくよりも、運営委員会以外の時間を使いながら実際に見学や調査に行くなどして、行動につなげていきたい。中長期運営方針の内容も勿論だが、その辺りも意識しながら、議論して欲しい。

3つのグループに分かれ、運営委員会の今期の取り組みについて、グループワークを行った。

【高齢者】 70～80代、50～60代(これから高齢者になる方)、その下の世代とでは求めているものが違うのではないかと。そもそもつながり方が違うだろう。

昔は近所のつながりがあったが、今は近所に声を掛けてもなかなか、外に出てきてくれない。

既存のコミュニティに参加しない方で孤立している高齢者でも、実は何らかで、つながりを持っている。そもそもコミュニティに参加している高齢者も、横のつながりがいいのではないか。若い人も横のつながりがいい。それは高齢者も若い世代も一緒ではないか。小さなつながりを、大きくして行けるような活動ができればいい。そのためには居場所が必要になる場合もある。物理的な居場所なのか、それともZOOMなどのバーチャルな居場所なのか。どんなニーズがあるのかは、年代によっても違うため、年代別に調査する必要があるだろう。

【子ども】 課題は放課後の子どもたち（小・中学生）の過ごし方だ。調布では、放課後の居場所として学童やユーフォー、児童館などが利用できる。子供たちの放課後の空白の時間を調査したい。前回、他市の活動として、放課後カフェ（小金井）の調査の話が上がったが、前提として調布の状況がわかった上で調査しないと何も吸収できない。そのため①調布の現状を調査、②市外の活動（複数）についてヒアリングなどの調査、③発表の3つのステップで行っていくという話をした。調布の現状として浮かび上がったこととして、学童の延長時間は19時が上限だが、この時間まで延長できる学童はとて少なく、殆どが18時までだ。親が帰って来るまでの時間をどう埋めて行くのかが見えている課題だ。今後は既に始まっている取り組みや、数値データなどの調査をしていきたい。

【50代男性】 元々は性差別などや社会的なテーマについて話し合っていたが、社会課題として広すぎ、難しいと感じたため、先月からテーマを変更した。ただ、ジェンダーに興味を持ってこのグループに入った委員も多いので、初めにテーマ変更に納得していただけるかを確認した。話の内容を共有したところ、皆さんからコンセンサスが取れた。時代背景として、50代はこれからの人生を考え始める時期だ。定年後や子育て後に、地域につながりが無かった場合、孤独に陥ってしまうことが社会的な問題を生じてしまうのではないか。実際には地域の中でちょっとした困りごとはいくらもある。役に立ち、「ありがとう」を気軽に集められるような仕組みがあるといい。具体的には高齢者宅の電球交換、粗大ゴミを出すお手伝いなど、50代男女が気軽に関われる仕組みを考えて行けたらと話しを進めた。例として調布には公益社団法人シルバー人材センターなどがあるが、公益社団法人は制度的な縛りがあり、出来ないことも多い。ちょっとした困りごとに取り組んでいる方たちが、調布にはいるようなので、今後調査していきたい。また私達のグループは50代男女の気持ちが前向きになるようなチーム名にしたい。ネーミングを募集中だが、50代にこだわらなくてもという意見もある。

【委員長】 具体的に見えてきたところもある。今後どのようなスケジュールで行うかなど、来年に向けて引き続き取り組んでいきたい。

協議結果：引き続き掘り下げながら、検討していくこととなった。

10：35～11：25 まで

3 えんがわフェスタについて

資料2

【委員長】先日えんがわフェスタグループの中でアップデートがあり、更新内容を共有させていただいた。フェスタまで2か月を切っているので、具体的な話をしていきたい。

【事務局】フェスタの話に入る前に、今期の取り組みについて、皆さんにお願いしたい。次回の運営委員会（12月19日）までの間にグループ内で具体的なスケジュールなどの話を進めて欲しい。えんがわフェスタについては、資料2をご覧ください。前回の運営委員会で配布した資料に、部会で具体的に詰めた内容を加えている。アンダーラインを入れている箇所が追記箇所だ。前回の委員会では、対象をどうするかという話が出ていた。改めて部会で再検討したが、調布に住んでいる外国籍住民のことをよく知らない、もしくはまだ関わりが少ない方で、このようなイベントに興味を持っている方を対象にしていきたい。もう少し絞ったほうがよいという話も出ているが、フェスタの目的を考えた時に、このくらい広く取ったほうがよいという意見があった。50名の定員は前回と変わっていないが、参加者を集めるための申し込み期間について検討が必要だ。前回の委員会で12月20日（水）の市報で告知するとしていたが、そうすると年末年始を挟んでしまい、参加者が確定してくるタイミングが遅くなってしまう。また外国籍の方にどのようなサポートが必要なのか、ギリギリの調整になってしまう。そのため急遽12月5日（火）の市報で、えんがわフェスタの開催と参加申し込みを受け付けることにした。既に市報の原稿は投げている。参加申し込みは年内に締め切るスケジュールになる。プログラム案については、少し変更が出てきている。パート2は、調布（日本）もびっくりあるある話を行う。例えば褒め方、怒り方の違いなど、文化の違いなどを企画している。第2部でスピーカーとして参加してもらう方には、第1部から参加してもらう方が盛り上がるだろう。リフレッシュメントタイムについては、cifa（調布市国際交流協会）で5つ位のプログラムが調整できそう。スピーカー候補者としても具体的な名前が上がっている。この後のグループ協議では、広報について2点検討いただきたい。1つがフェスタのタイトルだ。もう1つは今後チラシを作成する際、参加者を満員にするために、どんな風に訴求するのかを話しあって欲しい。第1部パート2、60分間あるある話の進行は、部会のメンバーが中心になるが、余裕があれば中身についても意見をいただきたい。第1部は、cifaの島田さんに講演をいただく。加えて外国籍スピーカー5名ほどがご協力をいただける予定になっている。リフレッシュメント用のデザートについても恐らく、ご協力いただけると思う。きちんと謝礼をお支払

いしたい。えんがわフェスタの予算から謝礼の支払いをしたいが宜しいか。センターとしては島田さん、スピーカーとして登壇いただく方に謝礼をお支払いしたい。デザートとの協力については食材費の負担はするが、それ以外はボランティアとしてご協力いただけるといいかと思うが如何か。

【委員】 レシピを提供してくれる人に対してはどうか。

【事務局】 どこまで払うかは色々な意見もあるので、部会で確定できればと思う。協力者に対する謝礼は、ご了解いただけただけということで宜しいか。それでは各グループで議論いただきたい。

各グループが話し合った内容について協議した。

【事務局】 それではキーワードなど、出てきたものを発表いただきたい。

【50代】 委員から「Better-together」というタイトルの候補が出た。聞いた感覚がとてもいい。候補として考えてもよいのではないか。「触れ合おう」「つながろう」などの狙いを日本語で加える形はどうか。

【子ども】 タイトルは出なかった。英語でわかるタイトルと、副題で中身がわかるタイトルで持って行くのが良いのではという意見が出た。前のグループの意見に賛成だ。

【高齢者】 ドメスティックに日本語のタイトルを並べた。色々なキーワードが出てきたが、「食べる」を出して行ったらどうか。「まだまだ知らない世界を食べる」などが上がった。

【事務局】 ニュアンス要素が出て来た。近々で部会の日程調整をし、最終的には部会メンバーで決定する。本日の協議は以上だ。

協議結果：最終的には部会メンバーで決定して行くことになった。

《報告事項》 11:25～11:50 (20M)

4 ちょうふチャリティーウォーク

【委員長】 10月29日(日)、ちょうふチャリティーウォークが開催され、多くの方に楽しんでいただけた。ウォークした参加者は506人、前は495人で微増した。500人以上の参加があったが、事故もなく、安定的な形の開催だった。寄付の合計金額は224,614円で、現在は報告書の作成、協力いただいた企業・団体への挨拶を進めている。ちょうふチャリ

ティーウォークの寄付金は全額えんがわファンドの原資になる。私はえんがわファンドの選考委員も兼ねている。えんがわファンドの仕組みは市民の方々や団体から集まった寄付が、調布を中心に活動しているNPOや市民団体の方々の活動費として使われる。市民の寄付が活動費に使われる自治体は余り無い。殆どが税金を使った公費で行われている。公費でなく、市民の方々の寄付で成り立っていることは、非常に良い取り組みだ。単に寄付するだけでなく、寄付することで、自分たちの街にどういった活動があるのか知ってもらうのも、えんがわファンドの大きな取り組みかと思う。

【事務局】 今、委員長からえんがわファンドの話があったが、えんがわファンドの助成団体を決定する際、選考委員会が設けられている。選考委員会の中で、申請いただいた団体を助成するかしないか意思決定している。運営委員の中から選考委員に3名が参加している。団体の活動が様々になってきており、選考基準が今のままだと団体をどう醸成していくべきか、選考委員がかなり悩むことが増えて来ている。例えばNPOの団体でも、活動のために収益を持つ団体が有ったり、活動するために稼がなくてはならない団体もある。営利、非営利の部分でどう考えるのがいいのか迷うことがある。寄付が原資になっている場合、それ以上を助成することができない。また今後助成団体が増え、どういう団体がえんがわファンドの助成先として適しているかを判断する際、今の募集要項の基準だけだと悩むことが出てきてしまう。えんがわファンドはセンター独自の事業だ。この事業の方向性を検討する際、事務局だけでなく、委員の皆さんにも一緒に考えていただきたい。協議をする上で、まずは皆さんにもえんがわファンドを知ってほしい。えんがわファンドの分かりやすい資料を配布した。ゆっくり目を通していただきたい。いずれにしても、えんがわファンドを支えているのは、地域のボランティアやちょうふチャリティーウォークのようなイベントだ。どんな団体を支援していくことが望ましいのか、委員の皆さんにも是非ご意見いただければと思う。質問があれば、お気軽に連絡いただきたい。

【委員長】 続いて災害ボランティア養成講座について、お願いしたい。

5 災害ボランティア養成講座について

【事務局】 今後の企画として報告する。市民活動支援センターでは毎年、災害ボランティア養成講座講座を行うことがミッションとして課されている。皆さんのお手元に中長期運営方針の資料をお配りしている。中長期運営方針の右ページ5番にミッションとして「災害時に備えた支え合いの醸成」（コミュニティの醸成）がある。地域の要配慮者に対する意識を高めるために、啓発を行うことが記載されている。恐らく3月になると思うが、要配慮者の存在（障がいのある方）を地域の方に知ってもらえるようなシンポジウムを行いたいと考えている。東京ボ

ランティアセンターと相談しながら、共催する形で、中身を詰めている段階だ。恐らく防災に興味のある委員もいらっしゃるかと思う。是非声を掛けさせて欲しい。

【委員長】 続いて第10回まち活フェスタについて、お願いしたい。

6 第10回調布まち活フェスタについて

【事務局】 3月10日（日）午前10時から15時まで開催予定で、実行委員会で検討を進めている。会場は国領駅前広場、市民プラザあくるすの諸室。実行委員会でテーマが決まった。今回のテーマは「ちょうふつう～調布の力を見せてやる」に決まった。これは都市との距離感や郊外的な良さを持ちながら、丁度いいと言うのが調布の魅力だという話が出たときに、これは、超普通、調布通、調布痛、調布IIなどの意味に置き換えられる。調布の良さを見つけられる、まち活フェスタにしたいということで議論を進めている。11月20日（月）の市報で出展団体募集の広報がされる。公募になっているので、関わっている活動や知り合いの方に広報の周知協力をお願いしたい。

【委員長】 続いて情報共有など。

7 情報共有

【委員】 cifa で得た情報だが、12月9日（土）午後、国際理解講座がグリーンホール行われる。文化庁の国語課から出ている優しい日本語がある。ウクライナ出身の留学生なども参加する。外国人のための無料相談会もある。困ってらっしゃる外国籍の方がいらしたら、是非伝えてほしい。お時間、ご興味のある方は是非ご参加いただきたい。

【委員】 紛争地のスライドを使いながらの、弾き語りもあるようだ。

【委員長】 素敵なイベントがたくさんある。是非、積極的に参加してほしい。

【事務局】 12月9日（土）午前10時から11時15分、おはなしほっとカフェでクリスマス会を開催する。お時間ある方がいらしたら、運営協力をお願いしたい。

【委員】 協働推進課で発行しているジョイナス（市民活動情報誌）は毎年全戸配布されている。今回は調布市内の居場所を取材している。今後インターネットでも閲覧できるよう、ちょみっと（情報サイト）に入れていくので、掲載したい場所などをお知らせいただきたい。ちょみっとは市民活動やイベントを検索することができる。是非ちょみっとを積極的ご活用いただきたい。

8 今後の市民活動支援センター運営委員会の開催で日時と議案について

資料5

【事務局】 12月19日（火）懇親会のため時間を18：00～20：00

※終了後に懇親会を予定

【委員長】 それでは本日の委員会を終了する。